中耳炎が治らない？

北尾耳鼻咽喉科医院
北尾 健二郎
若松区高須東 3 丁目 13－7
電話　742－0330

最近、耳鼻科医として診療していると、次第に中耳炎が治りにくくなっているという実感があります。実際、私が医師になって中耳炎を診察するようになった 20 年前と比べると、中耳炎の治り方がはっきりと違っています。短期間に何度も中耳炎を繰り返したり、なかなか治らずに特殊な治療を行わざるを得ないこともあります。

以前でも治りにくい中耳炎はあったのですが、その頻度は今ほど高くはありませんでした。今では全国的にもすんなり治る中耳炎が減少して、難治性の中耳炎が増えていることが報道されています。

これには託児所での集団保育、短期間の授乳が増えてきていることなどいくつかの原因が挙げられますが、最大の要因は中耳炎を起こしている細菌の問題です。耐性菌といって薬が効きにくい菌が増えて来ているためです。歴史的に見ると、抗生物質の宿命として、どうしても耐性菌の登場は避けられない面があります。抗生物質を使っているうちに、それに打ち勝つ強い菌が生まれてきて増えていきます。しかし、耐性菌が出現するスピードや拡がり方は抗生物質の使い方に大きく影響されます。中途半端に抗生物質を使うと耐性菌が生まれやすいものです。使う時はしっかり菌を殺すことが大事で、処方された薬を「もう治ったから飲むのを止めた方が良いだろう」などと自己判断して途中で止めると、症状は納まってもまだなかには生きている菌がいて薬を止めた途端に再び増殖してきます。そしてそれらの菌の一部はその薬に対して抵抗力を持った可能性があり、これが増えていくと次は同じ薬で治療した時に余り効かないということになります。

それと日頃から中耳炎の原因になる副鼻腔炎、鼻炎の治療をしておくことや、中耳に膿汁が多く貯留している時は切開して出すことも大事です。そういうことで抗生物質を使用する頻度や量を最小限に抑えられて、耐性菌の出現の機会を減らすことが出来ます。現在、ペニシリン系抗生物質の見直しなど耐性菌に対する治療の方法も次第に工夫されてきていますが、まだまだ耐性菌との戦いは苦戦が予想きれます。やはり早期発見、早期治療で抗生物質の使用量を少なくして、使った場合にはしっかり菌が消失するまで服用することが大事でしょう。